

内田一郎 著 河川堤防のための土質力学 理工図書 刊

最近極度の進展を見せている土質力学を、その全分野にわたって記述するのはぼう大な量ともなるし、また別に著わす機会もあるだろう。実際にわかりやすく書くためには内容を適当に区切って各分野ごとに取扱うのも一方法であると著者は考え、その一分野として河川堤防を選んで執筆したのが本書である。

内容は、序論、土の基本的性質、土の物理的力学的性質、土の分類、堤防の力学的安定、ろろ水、締固めおよび堤防の土質調査から成っている。

主旨だからと、手当たり次第の一分野としての『河川堤防』を選んだわけではなく、著者の研究がやはりそれに指向されていたからである。また著者の勤務地が相次ぐ水害に困惑をきわめた北九州地方であることから、その近辺の堤防の災害、その対策の実例が多く取入れられている。

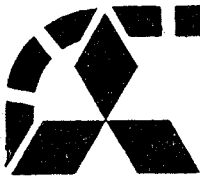
鈹害による地盤沈下の土質力学的な解釈と対策が盛られているのもまた然りである。

標題だけからすると公式的な力学書のようにも見えるが著者はそれを無味乾燥に終らせることなく、堤防災害、

強化などの対策にも多くのページ数をさいている。そればかりでなく現象全般を把握する必要性も強調していることは、堤防上の「もぐら」の坑道までその説明がおよんでいることでもよくわかる。いわば土質工学とでもいうべきであり、また読みやすくするための努力の払われた跡も歴然としている。

このような本書であるから、河川堤防の仕事に携わる技術者の誰にでも、特に最近の土質力学の解説から必要とする人々にも役に立ち、一方充実した引用文献表などもつけられているので、この方面の研究者の伴侶ともなるものと言つてよい。それと同時に堤防の施工法と、最近の土質力学という線が近いはずにもかかわらず、遠きに失していた両者を固く結びつけるべく努力し、かつそれを実現させ得た獨創性に富む力作ということもできよう。

【理工文庫】著者：正員 九州大学助教授、新書版 (103×173 mm) 194 ページ、定価 250 円、昭和 32 年 10 月 1 日発行。



橋 鉄 梁
鉄 塔
水 骨
水 車
水 門
水 圧 鉄 管
土 木 建 築



新三菱重工業株式会社

本社原動機部 東京都千代田区丸の内 2 の 14
神戸造船所 神戸市兵庫区和田崎町 3